

# HSK



第 55 号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可  
H. S. K通巻282号

発行日 平成7年9月10日  
(毎月10日発行)

編集 北海道腎臓病患者連絡協議会  
札幌市北区北35条西5丁目1-10  
AMS南麻生308号

発行 北海道身体障害者団体定期刊行物協会  
札幌市中央区北9条西19丁目55  
細川 久美子

平成7年 初秋号

## 道腎協第18回釧路総会開催される



美瑛の夏

撮影 鈴木 則夫氏

北海道腎臓病患者連絡協議会

# さわやかな涼風

会長 岩崎 薫



今年もまた盛夏がやってきた。昨年の暑さは水飢鐘みずうしなになって全国的に生活水までも不足し、四国、九州、関西地区では大変な毎日が続いた。しかし今年はそのような心配もなさそうである。

今年は7月に入って30度以上の真夏日が続き、円山球場では高校野球の決勝戦とあって、応援に出かけていった。

球場には熱風が吹きまくって

いたが、2時間の観戦もそこそこにして杉木立を歩むと、さわやかな涼風を体いっぱい受け、そこはかとな心地良さを感じたのである。

杉木立の歴史をひもとくとき、樹齢130年札幌開拓の歴史と共に植林され敢然と聳え立つ素晴らしい風格がそこにはあった。一本として曲がることを嫌う習性のなかにあつて、北国では札幌が最北端の地であることも伝え聞いた。

杉木立に耳をあてると静かな鳴音が幾重にも奏でられ微かに聞こえてくるのである。

札幌の歴史をこの杉木立ちは人間どもの生きざまを静かに見守りながら世の移り変わりを肌

で受けとめ見つめてきたのであらう。

私はこの杉木立の切株にそつと腰を下ろして遠い古の先人がこの地に一本一本と植林したのであらうことを思うと感慨一入であつた。

時の流れと共に忘れ去られようとする歴史を振り返ってみる時、そこには130年前に会津を中心とした大戦乱があつた。

私の祖先は旧会津藩士の武士であつた。しかし会津藩は幕末の混乱期において、明治戊辰の戦いに賊軍の汚名を着せられ、そのため戦死者を葬ることすら禁じられ、屍は野ざらしのままにされるなどあまりにも無残な状態であつたと伝えられている。

私の曾爺ひいじいさんが白虎隊と同年代で戊辰戦争に従軍したが、賊軍の汚名で北海道の江差に落ちのび、札幌山鼻屯田兵として札幌の開拓に斧を振つた。私の住んでいる現在の土地は曾爺さん

の開拓した土地である。

しかし130年の星霜せいそうを経た今日、祖先が残してくれた土地に住んでいるのは、2、3戸に過ぎず歴史の繰り返しのなかで殆どの土地が第3者に譲渡されてしまっているという。

そんな幾変遷の歴史を辿ってみるとき杉木立の合間から洩れる陽光が、一本の線となつてきりめき影を落としていた。

時折聞こえる高校球児の応援歌や歓声が、風のまにまに聞こえてはさわやかな涼風とともに散って行く。

透析して20年、両手を見つめながら、空高く背伸してみたとき、よくぞ今日まで生きてきたな…と実感がふつと湧いてくる。強く逞しく生きて行かねば。さわやかな涼風とともにそんな想いが走馬灯の如く脳裡を巡って行くのであつた。

以上

6月4日

# 道腎協第18回釧路総会開催報告

平成7年度の道腎協定期総会が、6月4日(日)釧路市生涯学習センターで開催されました。前日の3日(土)には、キャッスルホテルにおいて歓迎交流会が盛大に行われ地元の会員26名、来賓5名、全道各地の役員46名が参加しました。

交流会では、最初に掛札会長から「ようこそ霧の町釧路へ」と歓迎の挨拶がありました。

そのあと、岩崎薫会長が釧路に着いた感想も含め、透析患者の連帯を訴えました。

そして、来賓の波多野實釧路市市民部長が挨拶をしてくださいました。次に、林田クリニック院長の林

田紀和氏が、透析医療の変遷と患者さんの課題について話してくださいました。

そして、上田弘道腎協副会長釧路地方腎友会相談役)の音頭で乾杯が行われ、しばらくたってから、アトラクションとして釧路聴力障害者協会蝦夷太鼓研究会(12名)による演奏がありました。

1曲目は「悪魔はらいりムセ太鼓」、2曲目は「蝦夷黒潮太鼓」でした。聴力のない方たちの力強い演奏に涙を流して聞いている人もいました。

その後、カラオケの時間をもうけましたが、市民部長をはじめ、全道各地の方々がその喉を披露してくださいました。

最後には釧路泌尿器科クリニック

ク院長の久島卓一氏が美声を聞かせてくださいました。

抽選会でおみやげも出て、道南腎協の田中会長の乾杯で幕を閉じました。

道腎協総会当日は朝から雨が落ちていましたが、開会が近づくにつれて会場は空席がなくなるほどピッタリ(約120人収容)で、受付では136名が参加したとのことでした。

総会は、上田弘道腎協副会長の司会で進行されました。黙禱に始まり、来賓挨拶(市長からのメッセージ)、祝電披露(高野昭幹事)と進みました。

さっそく議事に入り、道南腎協の田中政夫氏と釧路腎会の私くし橋本巖が議長に指名され順調に議事

が進行いたしました。(議事の中身はどうじん第53号で)

そして、12時に無事総会が終了しました。地元会員の参加が多く、会場がいっぱいだったことが成功の証だったと思います。その後、昼食の弁当を食べ、解散しました。1時からは湿原・鶴公園見学会も実施され、参加した方々から好評を得ました。全てが終了したのは午後4時頃だったということでした。

この2日間、協力してくださいました役員幹事の皆さん本当にご苦労さまでした。体調をくずさなかつたでしょうか。

この総会を通して釧路地方腎友会の活動がより一層活発になることを願い、報告を終わります。

(報告：橋本 巖)



ご 来 賓

釧路市民部長

波多野 實氏



釧路市健康管理課長

岩村 敏之氏



釧路市福祉部社会福祉課長補佐

岩崎 秀夫氏



林田クリニック院長

林田 紀和氏

釧路泌尿器科クリニック院長

久島 貞一氏

難病連釧路支部事務局長

青田 典子氏

釧路新聞社編集局報道部

平山 公崇氏

祝電・メッセージ

(敬称を略させて頂きます)

全国腎臓病患者連絡協議会、釧路市長 鰐淵俊之、衆議院議員 北村直人、道議会議員 大橋晃、北海道難病連 会員・役員一同、北海道腎移植者 連絡協議会会長 松浦信博、(財)北海道腎臓バンク理事長 武井正直、夕張腎臓病友の会、北海道生活福祉部 障害福祉課長 小林照和、北海道臨床工学会士会事務局、北海道保健環境部保健予防課長 鎌田慎一、林田クリニック院長 林田紀和、釧路泌尿器科クリニック院長 久島貞一、



熱気に満ちた総会会場

北海道釧路保健所所長 後藤良一、市立札幌病院腎移植科 平野哲夫、難病連釧路支部支部長 佐藤信洋、ホシ伊藤(財)代表取締役社長 伊藤寛志、(株)バレイ代表取締役社長 真鍋雅昭、バクスター(株)札幌支店長 中野彬正、森永乳業(株)札幌支店長 熊野均、(財)秋山愛生館釧路営業所所長 松田俊司、(財)北海道栄養士会、マリオン・メレル・ダウ(株)

県 腎 協

岩手、秋田、山形、福島、栃木、群馬、

東京、川崎クリニック、長野、新潟、富山、石川、岐阜、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、島根、岡山、広島、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、長崎、熊本、大分、宮崎、沖縄、千葉、福井、埼玉、宮城 (34県)



前日の交流会



聴力障害者による蝦夷太鼓

# 道腎協第18回総会に参加して

釧路地方腎友会

金子 博



私の透析は3年余りである。初めての総会が釧路市生涯学習センターで開催された。学習センターの最上階に上がると360度市内を一望できる素晴らしいところ

ある。

前夜の交流会は、宿泊施設と同じキャッスルホテルで開催された。釧路聴力障害者協会の皆さんによる壮大な太鼓によって幕開けし、つづいて、各地区代表ののど自慢がおこなわれ、いずれも代表の素晴らしいのどをうっとり聞きながら、最後に福引を行って、予定通り前夜祭を終了した。交流会で特に印象に残ったのは林田クリニックの院長先生からの挨拶であった。総会当日は晴天を期待していた

があいにく小雨模様であった。私は、1階外の案内を担当した。ある組はタクシーで、ある人は歩いて続々と会場入りをした。定刻10時となり会場に入ると参加者の皆さんが会場一杯になっていたのはうれしかった。

総会は式次第にそって進められ全議案とも異議なく可決された。

その中で岩崎会長さんの挨拶と、平成7年度活動方針案の説明は初めて会長さんのお話を聞く私にとって目の覚めるような思いであった。透析を始めたときのお話、透析の現状、そして今後透析で予想される諸問題など、釧路腎友会員でまだお話を聞いていない人、会員でない人、一人ひとりの人には是非聞いて欲しいと思った。

無事総会が終了し安堵の気持ちで一杯であった。後は釧路湿原ツアーだけである。

掛札会長以下役員みんなが再三三合会を持って、参加者の皆さんに失礼のないように、満足して戴けるようにと地元として一生懸命運営に当たりましたが、いかがでしたか。

## 感想・意見

◇年 齢 30歳 男

◇透析歴 9年

◇所属ブロック 釧路地方腎友会

「机が足りなかったと思います。」

という程、人が集まって、総会は大成功だった。

昼めしを残してしまつた。

◇年 齢 46歳 女

◇透析歴 16年

◇所属ブロック 釧路地方腎友会

厳しくなる医療情勢が私達透析者にひしひし迫るものが岩崎さんのお話の中に感じました。まだまだ腎友会に入らない方がたくさんいます。総会にどしどし出て、こういうお話を伺って、より強力な道腎協を作っていきたいと思います。と訴えかけていきたいと思う。又、今日の総会大成功だったと思う。

◇年 齢 61歳 男

◇透析歴 1年

◇所属ブロック 釧路地方腎友会

1 この度の総会会長の挨拶の中で、3年しか生きられないという体験発表と腎患者が現在の



約150人が参加した道腎協総会

## 腎臓提供協力者拡大を

### 会員増強も今年度重点に

北海道透析協会の役員会が、昨月24日、釧路市生涯学習センターで開かれた。出席者は、北海道透析協会の役員、道内の各支部長、道外の支部長、道外支部の代表者など、約150人が参加した。この日は、腎臓提供協力者の拡大、会員増強、透析施設の整備、透析患者の生活の向上、透析患者の社会的地位の向上などを重点的に取り上げた。また、道内各支部の活動報告が行われた。この日は、道内各支部の代表者が、道内各支部の活動報告を行った。また、道内各支部の代表者が、道内各支部の活動報告を行った。また、道内各支部の代表者が、道内各支部の活動報告を行った。

6月5日付 釧路新聞

なった経過をわかりやすく説明され大変勇気が湧いて参りました。2 この挨拶を(どうじん)に掲載するか又は再度テープ等に録音していただければ、会員及び非会員にも聞かせることが出来、会員の増員にもなり一般の人、家族等にも理解が出来ると思います。

◇年齢 47歳 男  
◇透析歴 13年  
◇所属ブロック 釧路地方腎友会

初めて総会に出席させていただきました。  
札幌で総会が行われる時は、総会議案集にさっと目を通すだけでした。

今回じっくり目を通しましたし、この議案集には載り切らない熱気や人工透析がおかれている現状やこれからの活動の方向性を知らされました。特別に質問、意見は出されませんが、実際に出席しなければわからない皆さんの様子が見られてよかったです。事務局の皆さん、準備で大変なされたのではないかと思います。いつも元気で、患者自身だとは思えませんね。いつもありがとうございます。

# 全腎協総会報告

## 「第25回全腎協総会に出席して」

旭川地方腎友会 佐藤 昌夫



長年続けられてきた、全腎協の法人化運動も実を結び認可も時間の問題となりました。従って、この宮崎大会は法人化前の最後の総会でしょう。雨の宮崎空港に降り総会会場になる宮崎観光ホテルに向かう途中、ハイヤーの運転手は全腎協総会の関係で宮崎入りした方は、約1,500名と聞いていました。それだけに市も大変歓迎体制に気を使われたと思います。

宮崎県腎協の努力は、全腎協総

会が宮崎市開催と決まったときから、それは計り知れないご苦労があったと思います。参加人員の把握にはじまり、担当の指定、会場の手配、宿舍の手配、そして透析病院に対する休日透析依頼、患者配分と交通手段、さらにアトラクションを含め、懇親会の諸問題等、かつて行われた北海道総会の時にも、道腎協と札幌ブロックの方々が主体的に、同じようなご苦労があったことを思い、改めて頭が下がります。そんなご苦労があるから、参加する我々にも深い感銘を与えるのでしょう。

総会前夜の懇親会は、宮崎観光ホテルで、宮崎市では一番大きなホテルです。宮崎市の市長さん、透析医学会会長の歓迎のご挨拶があり、宮崎県腎協亀川会長の歓

迎の挨拶がありました。アトラクションも豪華なものでした。地元の神楽太鼓と舞い、民謡、宴の終わりに近づく、会場の周囲を、多くの参加者が踊り回り、すばらしい締めくくりでした。

翌日の総会も、宮崎観光ホテルでした。九州ブロック協議会の梶崎氏の司会、油井会長の挨拶で始まりましたが、その内容は、阪神大震災問題、法人化の問題そして、透析患者の現状等について、分かり易い説明と挨拶がありました。その後、議事が進行しましたが、深みのあるレベルの高いもので、あとで、機関誌全腎協に詳しく掲載されるので省きますが、私には大変勉強になりましたし、この雰囲気にも感激でした。

午後の分科会は、今年CAPD患者会の総会に道腎協加盟をお願いに行った経緯もあり、第三分科会「CAPDのすすめ」に参加しました。

この内容については、ビデオにまとめる努力をしている最中ですが、とにかく、このたび全腎協総会に出席して、本当に勉強になりました。そして、それ以上に会場

で得た感激と張りつめた雰囲気、私の今後の会活動に反映させたいと思い、その決意をもっていきます。参加の機会を戴いた事に感謝いたします。15年前、私達夫婦は結婚25年、透析に入ったばかりでしたが娘達から九州旅行をプレゼントされ宮崎に1泊しました。今回はたまたま結婚してから40年目、家内と共に全腎協に参加させていただきまし

た。そして、長崎に1泊2日ゆっくり見物してまいりました。

## 「全腎協総会に参加して」

小樽・後志地方腎友会

高田 登喜子

第25回全腎協総会が5月21日、宮崎観光ホテルで「社会保障の後退を許さず地域に根ざした国民本位の医療と福祉の拡充をめざし、腎疾患総合対策の早期確立」をスローガンにかかげ1,000名余が参加し、開催されました。

午前中は開会の挨拶、祝電メッセージ披露、平成6年度活動報告、平成

をして行くうえで、道腎協の会議の中からの話が、一番参考になっています。特に岩崎会長の経験的お話と考え方が何時の間にか私のものみたいになっていきます。会議に参加すると言うだけで、すごく意義有るものと考えています。

旭川地方腎友会から多くの役員が、道腎協総会等に参加することが、活動できる人づくりと将来の会発展につながるものと信じています。従って、そういう努力もしたいと思います。

7年度活動方針案等話し合い、午後からは分科会が開かれました。私は、「長生きする透析医療を求めて」に参加しました。約100名の方がこの分科会に出席、人間らしい豊かな生活をエンジョイし、自分に合った仕事を見つけ健康人と同じく、よく食べ、良く働き、汗をかき、研究結果を良く勉強す

ること。至適透析とは心臓への負担を少なくし生活の質や、生命の質の維持向上のために4時間透析よりも5時間透析が長期生存に良いと言われている。熊本の方は、5時間から6時間透析をしているが、徳島の方のように病院のベッドが満床で1日3交代透析のため物理的に4時間透析以外出来ず、また、診療報酬「包括化」のため長時間透析はやれない。それからHDF導入で、宮城県の主

婦の方は23年透析をやっている、原因不明の熱が出たがHDFを3ヶ月間続け、良くなった話や、10年以上透析している方の身体の痛みや合併症などに有効とされているが、補液を5ℓから10ℓするため、

保険請求など、いろいろな問題があるとの事。

これからはHDFの普及条件の改善やダイアライザーの自由な選択が出来るように願いつつ、今後透析ライフをエンジョイしながら自己管理を頑張っていきたいと思



て 覧 知

## 伊豆大島・箱根・横浜と

### 古都鎌倉6日間の旅

八巻 千敏 (苦小牧)

総勢14名(添乗員を含む)の小じ  
んまりしたグループだったが、6月  
14日から6月19日まで6日間の日  
程を全員無事消化し、帰ってきた。  
天候にはあまり恵まれなかった  
が、結構楽しい旅行だった。過去  
3回、旅行に参加したが、日程的  
にかなりきつい部分もあり、また、  
時間的に余裕がなく予定の変更を

せざるを得なかったときもあった。  
何で企画の段階で十分に検討しな  
かったのだろうか…と不満に思っ  
ていたが、今回は余裕をもって行  
動できたので満足している。期間  
も5泊6日位が丁度よいとの声が  
多かった。  
今回の旅行で特に印象に残った  
ことを目を追って思い出してみる。



#### 東京〜伊豆大島

(6月14日)

新千歳空港11時10分発、羽田着  
12時40分、あいにく東京は雨、そ  
れでも午後は殆ど雨も上がったが  
霧が深い。東京都庁は、話には聞  
いていたが本当にバカデカイ。こ  
んなものが本当に必要なだろう  
か?と疑問に思い、税金の無駄使  
いの最たるものという人達も多い  
と聞く。誠に同感。観光客も次々  
と貸切バスで乗り込んでくる。配車  
係員もバスの出し入れに四苦八苦  
しているし、運転手さんも大変だ  
と同情したくなる。せっかく来たの  
だからと展望フロアまで上ってみ  
たが外は真白で何も見えなかった。  
竹芝桟橋から夜10時のフェリー  
に乗ったが、釣り客の多いのに驚  
いた。大体はグループで行くよう  
で、大島を経過して利島・式根島  
方面まで足を伸ばすそうだ。そう  
いえば、この方面は大物釣りのメツ  
カでもあったのを思い出す。

#### 伊豆大島〜熱海

(6月15日)

昨日と打って変わって快晴、早

朝6時に大島に着く。島は全体に  
霧が濃い。それでも段々に晴れ間  
が多くなり、大島温泉ホテルで朝  
食が終わる頃は三原山もくっきり  
と見えた。空気が澄んでいるせい  
か景色がとても美しい。島内の道  
路はとても狭く、カーブもきつく  
多い。

三原山は、昭和61年の噴火以来  
活動を停止しているが、火山跡に  
立つと当時テレビで放映されたあ  
の凄まじい火焔が思い出され、そ  
の時にできた割れ目が生々しく当  
時を物語っている。今では周辺も  
整備され観光の目玉となっている。  
大島から高速船で熱海へ1時間、  
思っていたより小じんまりした温  
泉街で街並みも入り組んで解りに  
くい印象を受けた。

透析は、熱海温泉病院で受け、  
全員血圧の低下もなく無事完了し  
たが、食事が少ないのには参っ  
た。ホテルで再び夜食をとる。

#### 熱海〜河口湖

(6月16日)

十国峠・大涌谷・箱根を経て河  
口湖に入る。途中の大湧谷は、川  
湯温泉の硫黄山に似たような錯覚



を覚えた。硫黄山を少し小さくしたように、ゆで卵を売っているところも似ており親しみを感じる。河口湖まで約十軒の地点に忍野八海(オシノハツカイ)がある。天然記念物の指定を受けているようで水がともきれいだ。アヤメも満開で池には沢山の鯉が泳いでいる。この水は富士山に降った雨や雪が約80年かかって湧き出したものだ。水が良いいいか山野菜を使った漬物が名物となっており、観光客の格好の土産物となっている。

河口湖は、夏のシーズン前で静かだった。朝・夕多くの釣人をみかけたので聞いてみると、ブラックバスを釣っているという。結構釣れるらしく湖上にはボートを出して釣っている人たちもいた。たしか河口湖は、湖面に写る逆さ富士が有名だったと思ったが、昨日、今日と霧が濃く全くお山が見えず残念だった。

## 河口湖〜鎌倉〜横浜

(6月17日)

河口湖から富士の青木ヶ原樹海を抜けた頃、富士の山裾が一部僅かに見えた。そのうちに晴れるか

も…と期待したがダメだった。

鎌倉鶴ヶ岡八幡宮は人・ひと・ヒトでこったがえし、どこからこんな人に湧き出したのかと思うほど、これにハイヤー・バス等の車が加わり行くも帰るも出来ない有様だ。観光バスは次々と来るし、駐車場はどこも満パイ、ようやく駐車場の人を呼び倒して車を反転するためのスペースを借りてようやく戻ることができた。八幡宮には、車窓からの参拝で御容赦を願った次第、併し、こんなに混雑したのを見たのは記憶にない。

宿はシテイホテルだったが、到着早々透析を受けに行く。透析は、川崎市の川崎クリニックというところで受けたが、同クリニックの患者数は250名、3クールで実施しているようだ。スタッフも揃っているようで皆さんとても親切に扱ってくれた。

## 横浜〜大磯

(6月18日)

大磯へ向かう海岸線は景色もよく、きれいな建物は海とよくマッチし、さすが湘南だと思った。こもろノロ口運転が続いたが、お

陰様で海辺で若いカップルのキスシーンが見られ、皆さんセンボウのマナコで見ていた?…私はず…宿は大磯プリンスホテル、広く大きい。客室は500室あり、部屋のインテリアも気がきいていて家内共々大満足だった。建物のすぐ裏は海、海岸線がずっと続く。夏は、さぞや海水浴に大勢くるのだろうと思いき客室係に聞いてみると、海辺の落ち込みが深く、遊泳禁止区域となっているようだ。海岸に下りてみると、なるほど深そうだ。傍に船具が置いてあり、地曳き網保管の札が貼ってあったので、恐らく観光客に地曳網を経験させる為のものと思われる。

当ホテルには、数種類のプール・テニスコート・ゴルフコースと備えられ、十分に堪能できるようになっているが、料金が高い。プールは1日分5,500円とは…、これでも客はくるのだろうかと思っただけ、こちらではこれが普通なのかもしれない。

## 大磯〜横浜〜千歳

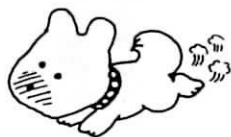
(6月19日)

曇天、遠くは霞んで見えない。

横浜でというより日本一のノッポビル、ランドマークタワー(高296米、地上70階、地下4階)も霞んでいる。横浜港内1時間周遊の遊覧船に乗ったが、いまいちだった。バスでベイブリッジを渡り大黒埠頭へ下りたが、近くで見るとベイブリッジはさすがに大きい。写真撮ったが案の定、遠景はボヤけてイマイチだった。それでもここまで来たとの証拠写真にはなるだろう。

千歳16時50分着、皆さん再会を約束し解散。

総じて、今回の旅行は楽しかった。企画も成功だったと思う。運転手さんの技能も抜群、バスガイドさんのトチリ勝ちの案内も愛嬌があつてよかった。新人の添乗員さんの御苦労を謝しながら、今後の企画を楽しみに期待する次第です。



## 相馬 啓子（岩見沢）



晴れて戴帽式

### 一、透析までの経過

腎臓が悪いと知ったのは、今から18年前高校3年の冬休みのことでした。医療関係の学校を受験するため、健康診断を受けたら、尿に異常があり、詳しく検査をして、腎炎であるとわかりました。

その頃は、いずれ透析を受けるようになるとは思いません、生まれて初めての入院生活を8ヶ月間送り退院となりました。まだこの病気の恐ろしさが理解できていなかったため、その後は普通の生活をしていましたが、6年後に血圧が上昇し眼底出血をしてしまい、透析が他人事でないと自覚させら

れました。

それから少しずつ腎機能は低下し、何度か入院を繰り返して、岩見沢市立総合病院で透析導入となったのは、昭和61年2月1日のことでした。

その頃は、就職することもできず、尿毒症症状もあったため、早く透析を受け元気になる働きたいと、導入を待ち遠しく思っていました。

導入直後は、薬が合わなかったためか、全身に湿疹が出て掻みが強く、頭髮は8割が抜けてしまいカツラのお世話になり、味覚は狂ってしまい何を食べても苦く数ヶ月間は辛かったです。その後少しずつ体調は良くなりました。

### 二、現在の日常生活

#### について

透析生活も6年を過ぎた頃、現在私が透析を受けている腎友会岩見沢クリニクに転院しました。

その頃は事務のアルバイトをしていたのですが、院長先生が私の将来を考えて看護婦になるチャンスを与えてくださいました。自分に勤まるかどうか不安はとも大きく

あったのですが、もともと医療関係に進みたかったこともあり、一大決心をして岩見沢市医師会附属の看護学校を受験したのが34歳の春でした。仕事と学校と透析と毎日大変

ではありましたが、自分の半分程の年齢の人達と勉強をしたり、臨床実習やレポート書き、スポーツなど色々な経験ができた学生生活は新鮮で

とても楽しい毎日でした。そして今年の春、なんとか無事に卒業し、准看護婦の免許も交付され、今は透析スタッフの一人として働いています。

学校に行っている間も現在も、透析を受ける時間が必要なため、先生をはじめスタッフの皆さんに色々ご迷惑をおかけしています。が、御理解と御協力を頂きながら勤務しています。

まだまだ半人前ながらも頑張っています。スタッフが側の立場になり改めて、透析医療の難しさを、仕事の大変さを身にしみて感じて

いる今日この頃です。

### 三、食事などの自己管理

#### で注意していること

自己管理については、とても模範となるような生活をしているわけではないため、言える事はありませんが、体力維持のためにしっかりと食事をすること、二次性副甲状腺機能亢進症があるため、リンが高値にならないようにする事などに気をつけています。

その他には、透析を受けなければならぬ身体にはなってしまいました。が、精神的にはいつまでも健康でいられるように、明るく元気になりたいと思っています。

### 四、将来に対する希望

まずは、1日も早く看護婦として一人前になれるよう頑張りたいと思っています。

そして透析生活も10年目ですが、今のところほとんど骨痛などなく動けるため、今後も仕事に支障がなく動ける限りは、看護婦として、透析スタッフとして、働き続けていきたいと思っています。

# ブロッック紹介

## 浦河地区腎友会

浦河地区腎友会は、会の組織が設立されたことから昭和63年4月苦小牧腎友会から分かれ新たな8名を加え会員31名で発足しました。

今日までの治療体制の経過として、患者の増加に伴い平成元年8月に二部制(夜間透析)が実施され、働いている会員には大変な喜びとなりましたが、この二部制は簡単に実施された訳ではなく、会員のたゆまぬ努力がありました。病院側と再三交渉を持ち関係する5町の町長及び議会議長宛に「浦河赤十字病院の人工透析施設に係る施設の拡充及び人員増員に関する陳情書」を提出するとともに関係機関等への陳情要請を行い増設されたものです。

平成2年度の総会で名称を「浦河日赤腎友会」から「浦河地区腎友会」と改称。この年、徳洲会静仁会静内病院に於いて透析が開始され2名が転院しました。

平成7年4月における透析者数は55名、会員は47名、町別内訳は静内町4名、三石町5名、浦河町21名、様似町15名、えりも町10名で会への

加入率は86%で、未加入者は導入間もない人達であることから会の目的等を理解していただき全員加入に努めて参りたいと考えております。

現在の透析施設



では患者の増加に対応できない状況となっていることから現在の19床から30床への改装が進められ本年度未完成を予定しております。

当会の事業・活動は、新しい年を迎えるの新年会や、春の観桜会、秋の観楓会、送別会、会員がもつとも楽しみにしている温泉旅行、また腎バンクキャンペーン、勉強会、広報紙「ネフロン」の発行等、多数の会員の参加で行ってきましたが、近年活動の停滞を感じ、できうる限り会員が多く参加できる

よう総会を兼ねての観桜会、腎バンクキャンペーン、温泉旅行を企画実施しておりますが参加会員の減少はいなめない状況となっています。

これら停滞の理由としては、役員の恒常化、会に対する関心の低下、会員の高齢化、等考えられるところですが、腎友会は会員みんなの協力によって発展するものと考えています。会員自らが積極的に参加し腎友会の活動が推進されるよう努力をしてまいりたいと思います。(報告・渡部 寛)

# ブロッック便り

## 深川ブロッック

### 「サクラランボ狩り」

7月9日、日曜日晴天。朝早く目ざめカーテンの間から光が差し込み空を見上げると雲の切れ間から太陽の光が強く照りつけているのです。久しぶりの真夏日で待ちに待ったサクラランボ狩りです。

藤沢先生、スタッフ7名の協力

をいただいで会員家族総数37名の参加です。初めての野外行事ですので天候が心配でした。今回は大勢の参加で役員一同大喜びです。

会員が少ないのと入院者、高齢者の多い事で、いつの行事も参加者が少ないのでスタッフや家族の

協力が大なるものがあります。

今回は歩くのに不自由な方、入院生活している方や車いすでの方も未加入の方にも呼びかけ高齢者など家族同伴してスタッフの協力で参加していただきました。病院にいる時の顔とはまったく別人で明るくよるこびが見られ呼びかけて本当によかったと思いました。

行く先は音江山の川幡園です。

市立病院前10時出発、小型バス1台、自家用車4台で出発しました。

会員の川幡さんのご実家で腎友会のため園全部解放してください。好意に甘えて大人も子供も小高い山の中をサクランボめがけ走り回りました。

川幡園から眼下を見ると田園風景がゆたかに広がり深川の町も美しく見えました。空気の清々しさ、ここちよい風、広い山々には赤く色づいたはち切れんばかりのさくらんぼが、たわわに実をつけ、かごを手にして皆かごいっぱい実をもぎとり楽しいひと時を過ごしました。

11時半から昼食親睦会です。子供や会員はジンギスカン鍋を囲み

ながら先生、スタッフと生ビール、ジュースと日頃の悩みや忙しさをから開放されどの顔も笑顔の1日でした。

何よりも子供の参加が行事を盛り上げ、元気な子供の笑い声がいっそう楽しくしました。また来年もと川幡さんのお父様をお願いして来ました。川幡さんご一家に深く感謝申し上げます。午後2時無事市立病院前で全員解散し、それぞれ家路にむかいました。

(報告・宮本 律子)



サクランボの木をバックに

## 江別ブロック

# 「溪和会江別病院透析患者の

# 勉強会について」

5月28日初夏の晴れ渡った日曜日、街では小学校の運動会の花火が威勢よく空高く舞い上がっておりまして。

そんな最高の日、当病院の勉強会が行われました。道腎協会長の岩崎さん、札幌腎友会会長の鈴木さん、宮本さんの3人が出席された勉強会でした。

会員も40名近く出席されました。

腎臓病患者のこれからの透析治療はどうなっていくのか、患者が年々増加することによる健康保険の問題、そして検査料の定額制、透析治療そのものの包括化など、またダイアライザーの治療費の引き下げ等、具体的な諸問題について



て詳細に話されました。また鈴木会長さんからは全道で2番目の透析歴25年の経験を踏まえ、今日までの経験談をつぶさに透析当初の話題から今日までを話されました。

会員一同真剣なまなざしで拝聴致しました。10時から開始された勉強会も12時までの間、改めて勉強会をしてよかったとつくづく実感が湧いてきたことは、非常に充実した会であったと感謝致します。

私共も及ばずながらこの機会を得てお互いに勉強して行こうと思えますので、これからもよろしくご指導下さいますようお願い致します。本当にありがとうございます。

(報告・佐藤 将)

# 「患者会活動と道腎協の在り方」

運営委員 西木戸 隆 博（北見）



るのです。

思いがあったにちがいありません。この一つの要求運動だけでも、都道府県はもとより、市町村のすみずみまでも地域を越えて一致し、組織拡大につながる活動ができたと思います。

患者の要求実現のために組織を作り、各方面へ要求を提出し、一つの要求を実現していくことが会活動であることは、知っての通りですが、現在の活動を見てみると、何か発足当時の活動のくりかえしのように思えてなりません。「金の切れ目が命の切れ目」といわれてきたことが現在も通用するのだろうか？発足当時は、1回1回の透析が実費負担でした。この時は、日本全国の患者全員が「補償してもらえないかな」という

そこで、現在「お金がなくて病院が出来ない」「一部負担金や諸経費が払えない」「食・生活費がない」等により、死に至るといふ事が発生しているだろうかという事、患者会の活動によって、国に補償してもらおうようになり心配なく透析が受けられるようになったのだ」と、返事がかえってくる、事実その通りであります。患者会の活動であるうが、国の福祉政策であるうが、お金がかからないで透析を受けているのは事実です。この事は患者自身、全員が分かっている

まして、現在の社会風潮の中で「患者会が活動してきたから、お金に心配なく透析が受けられるのだよ、あなたも会に入ってください」だけで組織の充実がはかれるだろうか、また、各自自治体による福祉政策もまがりなりにも充実しています。その中で、各地域よりの集合体により患者会が成り立っています。よって一つの地域のことでの活動はむずかしくなります。また、昔みたいに手を取り合って生活しなければならぬという事はありません。まして、個人主義がはびこる今日、真に「患者会とはなんぞや」と思われてもしかたがないのでは…

のではないのでしょうか。今こそ、患者に責任をおわせるのではなく、患者会自身が今一度、振り返って患者会の在り方を見つめる時ではないでしょうか、そこで重要になってくるのが「道腎協の在り方」ではないでしょうか。道腎協の活動は、各患者会の活動をいかにしやすいたものにするか、アドバイスをする立場にあると思います。また、「道」としての組織拡大が大きな課題ではないでしょうか。各会議等の報告を聞く場ではないと思います。各患者会の活動も現状に基づいて掌握し、分析してどのように活動するのが良いか、具体的計画を出す必要があると思います。その役目をするのが、運営委員会であって、その計画を伝える場がプロック会議ではないか思います。道腎協総会にて決議された方針を各患者会が活動しやすいうように運営委員会が具体化し、プロック会議に提案し、全道一斉に目標達成に向けて活動していくことではないでしょうか。たとえば、会員拡大で、3,017人を3,300人に拡大すると総会で決議されましたが、

「友

人

宮本律子(深川)

どこが責任を持って目標達成するのか不明です。自然発生的に拡大するのを待つことになるのです。

この様な活動で良いのでしょうか。現在の行政の福祉政策のやり方では、昔以上に苦しい時代がくるかも知れません。(飽食による貧困)

今こそ道腎協として、現状の認識の上にとって役員は基より、会員が生きがいのもてる中身、患者に魅力のある組織にする必要があるかと思えます。

そのためには、役員だけにまかせず、会員の皆さん一人一人が道腎協に何を要求するか、一声を出すことが必要であります。

なお、要求したからといって100%実現できる訳ではありません。いかに、100%に近づくよう努力することが重要であり、そのことに対して全体で認め合うことが患者会を活性化させることになると思えます。

会員の皆さん、一人はみんなのために、みんなは一人のために共にガンバリましょう。



オタナミ会のメンバーと

過ぎし日を振り返る、透析導入の昭和56年3月25日これで自分の人生も終わりかと思つたものです。見るも聞くも自分とは拘りなく一人暗い別世界に落ち込み苦しみもがいてるのです。今迄築き上げた幸福も一瞬のうち煙のように消え、

やり場のない気持ちで、気力も無く一日一日が長い日々でした。

ある日、私の透析前の主治医の奥様で大切な友人の一人である方から1枚の絵はがきが送られて来ました。その絵は、母親と4人の子供が丸テーブル(昔の食卓)を囲み長男と思われる方がバイブルに手をそえて、5人で祈りいる絵なのです。なぜか泣けて来た事が今も思い出されます。後で知ったのですが、その絵はがきは竹林治郎作品明治39年(1906)朝の祈りの名画だったので。文面は切々と私の病の心配と一日も早い退院を祈り下さっている心のこもったお便りでした。冷たく閉ざされた心にも「生きたい」との思いと、もう一度4人の友との集いを心に描いたものです。4人のグループ

は、子供のピアノの先生中心にそれぞれの名字の一字を重ね「オタナミ会」と名づけ、時々会って時間のゆるすかぎり語り合う仲間でした。3人の友の祈りと心のこもったお便りに励まされました。

のちに、道立美術館で朝の祈りの実物の油絵を拝見した時の感動は忘れる事はありません。主治医も10数年前最愛の奥様を残し、その奥様も6年前ご主人の後を追うように他界されました。いつも心配して下さった方の身罷しみまかりときのショックは大変なものでした。

奥様が体調をくずしてから、たがいに励まし合い、又どちらが先に逝くのかと弱気をはいたりしました。あの時に励まされた私方も16年目の透析を向かえました。友人は宝です。私は多くの良き友人に恵まれております。長男(昭和33年生)が小学校入学時に幼稚園の父母会で仲よくした方々と勉強会を作り、本を読み家事・家計・教育など共に語り合ったりしていました。初めは8人でしたが、ご主人の転勤で今は5人のグループですが30年ほど続いております。一人ひとりの個性と教養の深さは

# 『CAPDについて』

宮武 郁江（主別）

私にとって大変教えられるものがありました。子供達も成人となり、今は自分達のための人生を考える日々です。時折の旅行、お食事会などをして自分達の楽しみを作り出し、月1回例会を持ってストレス解消をしながら健康を日々の安定のため語り合う事が多くなりました。

私の透析の無い日に集まってくる等心くばり下さりうれしく思っています。よく30年も長く続いたものと自分達も感心しています。5人それぞれの個性を認め合い、今日迄私生活に深く入りこまず過ぎました事が長く続いているのだと思います。これからも透析を受けながら良いお付き合いを続けて行きたいと思っています。



短歌の先生と

透析を受けてからも多くの友とのめぐり合いがありました。滝川クリニク時代グループが出来、楽しい事が多々ありました。又、すばらしい友人「先生」にめぐり会い私の考え方も少々変化してまいりました。

ご夫妻で同じ趣味をおもちで短歌の指導者です。私には無縁の歌の仲間に一歩足を入れるようご指導いただき今日に至っております。人と人とのめぐり合いは不思議な事と思います。お母様のような暖かき、寡黙な方なのですが、一言がいつまでも心に残り懐かしさと共にお会いしたくなります。

転院した現在でも歌のご指導いただいております。私も友であり先生でもある方の様に、齢いを重ねながら日々送りたいと思っておりますが、勉強不足と人間性の違いでしょうか、ほど遠い事です。又、学生時代の友、私が生きていた事を心からよろこんでくださる友、いつも心にかけて下さる多くの友は私の最大の財産です。残された人生は、人々に愛と祈りを捧げられる人間でありたいと思います。



「CAPD治療の日常について、書いてほしい」ある朝鳴った電話の相手は、「道賢協」の事務局の人の声だった。「えっ、あ、はい...」突然の原稿依頼に驚き、半ば茫然自失で返答する私に、事務局の女性性は後で詳しい依頼書を送る旨を伝えて、電話は切れた。

「えー、ええー、うっそー」嘘ではない。「どうしよう...」どうしようもない、もう「はい」と言ってしまった。「書けるだろうか」書けるだろう、でも...、「どうじんの編集者の希望している「CAPD治療の日常」って、なに？」

そもそも何故「CAPD」にしただんだっけ。「HD」を始めたのが

丁度10年前の今頃。そして丸6年後の91年、スタッフ、両親、友人に励まされながら私は「栄養士になりたい」と、短大の栄養専攻を受験、合格。そして始まった学生生活、しかしそれは無茶苦茶忙しい毎日だった。全ては「HD」あつての学生生活。「3年どころか4年かかって卒業できないかもしれない。透析に合わせた生活ではダメだ。」そして...、毎日の学生生活にHD、それにCAPDの勉強が更に加わった。CAPDの勉強は短大の講義より気が抜けず、命にかかわるからと簡単にはドクターのOKも出なかった。その頃のCAPD患者はたったの一人、私は二人目になれるか否か。今考えると、随分慎重な導入だった。

短大が夏休みに入った。ドクターのOKも出た。入院。大きなトラブルもなく、無事導入。しかし神経質な性格が退院を延長させてしまった。9月の前期試験を、病院

から通学して受けていた。この後はまあ順調で小さい事はいろいろとあったが、予定通り3年で卒業。資格も取れた。

「CAPD治療」に変更してからの生活は、バッグ交換の煩わしさは残ったが、快適だった。朝6時半の起床とともにバッグ交換。身仕度を整え、食事を取り、8時には家を出る。講義を終えて昼休み、医務室へ行ってバッグ交換。

この間約30分。残りの30分を学食で年下の同級生たちとお昼を食べながら過ごす。朝のお弁当作りがバッグ交換の時間にとって変わった。午後の講義が終わるのが大体4時半。また医務室へ行ってバッグ交換。5時をかなり過ぎてから短大を出て、6時に帰宅。食事をとってシャワーを浴びて、カテーター出口の洗浄と消毒。「大きなサビオ」のような絆創膏と綿棒を用意して、イソジンをつけてグルツと回す。絆創膏で蓋(?)をして、消毒完了。この頃はまた今のようなバッグフリーではなかったため、風呂・シャワーの類は非常に面倒。空バッグと、繫っているチューブを折り畳んでビニール袋に入れ、浴室のどこ

かに置いて入浴すると指導されたのだが、これでは動きがある度に手にとって移動させなければならぬ。そのため、バッグの入ったビニール袋を横腹にテープでくっつけて入ることにした。これは楽ではあったが、テープ代が結構かさんだ。バッグフリーが当たり前の今では、随分大袈裟な格好である。

私のバッグ交換回数是一日5回。普通の人より1回多い。これは一度に入れる量が1,500ccのため。2,000cc入れていた時期もあったが、この量だと、除水されてお腹が張ってきた時に痛くて我慢できなかったし、何より食事が一口食べただけで満腹感で一杯になり、量がとれない。御存知のようにCAPDは腹膜を通して蛋白やミネラル分が抜けてしまうから、栄養不足になりやすい。食べられなければダメなのだ。ドクターに懇願して、5回にしてみらったので、シャワーの後には2回のバッグ交換をしてから眠る。寝る時間は夜中の12時。こうして「CAPDの一日」が過ぎて行く。よく言われるように、「CAPDとは治療に自分を合わせるのでは

なく、治療を私の生活に合わせる」のである。食事も他人と同じ物を食べ、同じ味を楽しめる。

今、CAPD患者は11名。内、「A

## 全腎協総会と九州ツアー

### // 感想文 //

PD」が5名。この1年半で仲間が7名増えた。まだまだ増えそうである。CAPDに積極的なドクター澤谷のおかげである。感謝。

#### 高田 優子(小樽)

透析に入ってから15年10ヶ月になりますが、5泊6日の長い旅行に出たのは初めての経験でした。全腎協の総会に出たのも初めて、旅行で透析したのも初めてでした。たくさんの人と知り合いになり、大変楽しい旅をする事が出来ました。

#### 小柳 房子(小樽)

な旅を終える事が出来ました。旅行中の透析は初体験で、温度設定や血液の流量などを聞かれ面喰らいましたが、この透析で勉強になり自信もつきました。

#### 北 征子(小樽)

20日、朝早く小樽を出発。6時間足らずで南国宮崎に到着。夜、会食してから宮崎オーシャンドームへ、早速南国でのプール遊び。2日目、まる1日総会、全国から千人以上参加されたようでした。3日目から、本格的に旅行が始まりましたが、天候にも恵まれ最高

#### 杉本 修一(小樽)

透析生活20年目にして九州旅行が出来たなんて、本当に夢のような気がしました。生きていて本当に良かったなあと思いました。

#### 吉川 陽子(小樽)

今回の旅行は天候にも恵まれて最高でした。腎不全で透析生活と言う事で内にももりがちになりましたが、自己管理をしつかりして生



活すれば色々な事に挑戦できます。これからも、たくさんな事に取り組んで欲しいと思います。

### 北川 敏子(小樽)

旅行は、毎日が大変楽しく、心に残る事の連続でした。

### 福士 ユミ(小樽)

長い旅行は初めてなので、とても楽しかったです。菊南ホテルの宴会は楽しく、愉快でいつまでも思い出に残ることでしよう。

### 高田 登喜子(小樽)

足の悪い私が、果たして5泊6日の旅行に付いて行けるかどうか内心は不安でしたが、皆さんの温かい心に触れ無事に過ごせました事、本当に有難うございました。

### 前川 和子(小樽)

以前から行ってみたいと思っていた九州/たくさんの方と友達になれたし、色々勉強になって良かったです。

### 広田 ツエ子(小樽)

24日の宴会は大変楽しかったで

す。あんなに楽しく笑った事は有りませんでした。この旅行は本当に良かったです。さすが南国/フェニックス大変感激です。

### 金井英樹・和子(小樽)

透析をはじめて3年、初めて夫婦揃って5泊6日の長い旅行をする事が出来ました。旅行で一番印象の強かった事は、①熊本で全員が参加し、楽しく歌い踊った宴会。②鶴戸神宮の強行軍。③熊本城の立派なたた住まい。④水前寺公園と磯庭園の大きさと美しさ。

### 中村 英子(小樽)

日本最南端まで行った事・宮崎のワシントンヤシの木・最後の夜の宴会：本当に楽しく過ごさせて貰いました。

### 合田 晃(室蘭)

全腎協総会は2回目の出席になります。宮崎は各地から1、040名の患者家族が集まり、盛会裡に終えたと思います。これからは、医療包括化阻止に向けて患者自身が認識し、医療の低下に繋がらない様に一致協力して頑張りましょう。

### 浅田 精一(室蘭)

全腎協の総会には初めて参加しましたが、大変勉強になりました。

### 三浦 サヨ(室蘭)

私は透析12年目に入りました。全腎協の分科会では24年から27年の長い人の体験談を聞くことが出来まし

た。大きな希望が湧いてきました。

### 藤田 孝子(室蘭)

私は透析半年の身ですが、初めて全腎協の分科会に出ました。お話では、20年以上生きている方が多く、私にも自信がわいてきました。次の機会が有ったら又旅行に行きたいと思えます。



道腎協南九州6日間の旅 於 熊本城

※新ネットワークがスタートしてから腎移植希望登録者のHLA検査を担当するブロックセンターは、東北・北海道ブロックのうち、北海道では市立札幌病院となりました。また、今回から登録者の自己負担が変更となりますので注意してください。

〈来院して登録する場合〉

1. 来院日の予約が必要です。  
(連絡先)  
札幌市中央区北11条西13丁目  
市立札幌病院 腎移植科  
TEL 011-726-2211  
(移転の為10月1日より)
2. HLA検査の為採血と、先生からのお話があります。

〈血液を輸送して登録する場合〉

1. 登録を希望する方は、透析を受けている病院のスタッフ(医師・看護婦・看護士)に申し出て下さい。
2. スタッフから「新規移植希望者登録用紙」が渡されますので、名前、住所、移植希望病院(ネットワークに加盟している病院-別掲)等を記入する。
3. 血液を輸送する旨を市立札幌病院へ連絡し(スタッフの方)、HLA検査を行なう為20mlの採血を行ない、登録用紙と一緒にその日の午後4時までに届く様にする。

4. 手続きが終了すると、移植希望者1人1人のデータがブロックセンターのコンピューターに登録され、同時に中央の親コンピューターにも自動的に登録され、全国の提供者を待つ事になります。
5. 尚、登録料として1万円、HLA検査料4万円(免除の申請中)の計5万円が同時に必要です(振込をする)。  
又、翌年から毎年更新手数料5千円も必要となります。
6. すでに登録を済まされている方は上記の手続きは必要ありませんが毎年更新手数料5千円は必要と思われます。(4、5、6は両方に共通する)

# 登録など3実務委設置

## 東北・道ブロックセンターが発足

日本腎臓移植ネットワーク

日本腎臓移植ネットワーク東北北海道ブロックセンターが十五日に正式発足。同ブロックに「組織適合性・患者登録」「移植情報・抽出搬送」「啓発・普及」の三実務委員会を設置するほか、道ブロックを道腎臓バンクに設置することを承認した。

れる同ブロックセンターのセンター長に就任したのは東北大の吉永警名誉教授。事務局長には東北大第二外科の田口喜雄教授、事務局次長に市立札幌病院腎移植科の平野哲夫主任医長が就任した。また、ブロックセンターの運営と、公平・公正な移植医療になるよう助言・指導していく医療運営

・評価委員会には本道から平野主任医長を含め四人が参加する。そのほか、各ブロックに二人ずつ配置されるチーフコーディネーターの一人に市立札幌病院の西垣文敬氏(移植コーディネーター)が指名された。仙台駐在のチーフコーディネーターは選考中。HLA検査セン

ターは市立札幌病院と仙台社会保険病院に置かれる。本年度から発足したネットワークでは、全国五カ所のブロックセンターに国立佐倉病院のホストコンピュータと連結したコンピュータを設置。レシビエントの情報を全国一元で管理。ドナー発生のレシビエントの選定から抽出・移植までの連絡調整をチーフコーディネーターが担う。現時点では、北海道ブロックが具体的などのよう な機能を担うのかは未定となっている。

〈北海道医療新聞 H7. 7. 21〉

〈移植ネットワークに加盟している病院〉  
(北海道関係分)

北海道大学 泌尿器科  
市立札幌病院  
札幌北楡病院  
札幌中央病院  
市立釧路総合病院  
市立旭川病院  
日鋼記念病院(室蘭)  
伊達赤十字病院  
以上のいづれかを移植希望病院として、指定する事になります。

## ご訃報

道腎協幹事  
原田幸一氏



道腎協の幹事で、オホーツク腎友会事務局長として患者会活動にご尽力、ご活躍されて来られました、原田幸一氏が、7月13日に20年の透析人生に幕を閉じ、ご逝去されました。(享年47歳)

ご生前のご活躍を偲ぶ時、痛惜の念でいっぱいです。心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

## 献腎移植希望登録の手順

平成7年4月より、腎臓移植の新しいネットワークが発足いたしました。このシステムは、死体腎移植の円滑な推進を図る為に、国立佐倉病院を中心とする地方腎移植センター等の既存ネットワークの全面的な見直しを行い、公平かつ適正な移植という基本的な考え方とした新システムとしてスタートしました。また右記に掲載した様に東北・北海道ブロックでは3実務委員会が設置されました。この様なことから移植が、我々の身近になる事を願います。

## 「知っておきたい」

### 「副甲状腺機能亢進症」

#### 「副甲状腺ホルモン(PTH)と副甲状腺機能亢進症」

首の喉ぼとけの両側に甲状腺があり、甲状腺の裏に上、下、左、右に米粒大の副甲状腺が普通合計四個あります。ここから分泌される副甲状腺ホルモン(PTH)は、血清カルシウムを正常に維持する働きをしており、血清カルシウムが低いと分泌が盛んになり、骨からカルシウムを溶かし出して血清カルシウムを上げます。

血清リンが高いと、腎臓に働いてリンの尿中への排泄を盛んにしてリンを下げ、結果として血清カルシウムを上げます。

透析者では尿量が著しく減っており、尿中へリンを排泄できないためにさらに副甲状腺ホルモンがどんどん分泌され、副甲状腺は肥大してきます。副甲状腺ホルモンの分泌が盛んになれば、骨からカルシウムが溶け出して骨がもろくなります。この状態を副甲状腺機能亢進症と呼んでいます。

従って血清リンを上げない工夫が大切となつて来ます。

## 編集後記

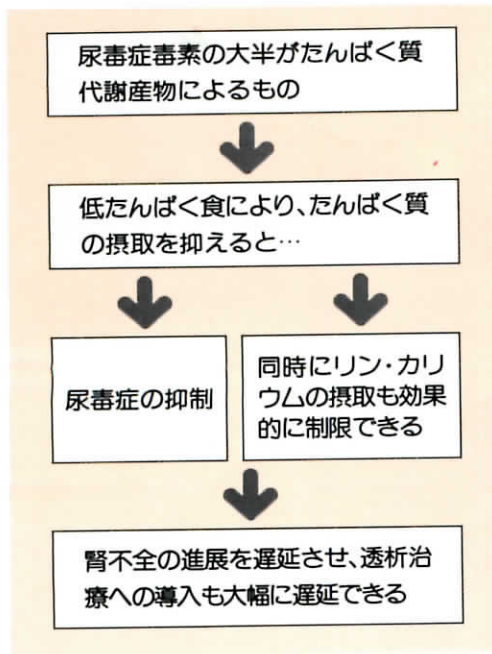
この程(8月11日)北大医短の学生による透析患者の旅行に関するアンケート依頼あり。(何んとタイムリーな。その数日前然別湖へ行って来たばかり、風光明媚な様は「どうじん」の表紙絵にした位だった。)

今号にも楽しい旅行記が載っている。又透析患者と思えない程自分の目標に向って頑張っている方の記事もあり、とても勇気づけられ感動した。会員の皆様も紅葉の季節の前に楽しい思い出作りに挑戦しては如何でしょうか。

(久原幸江)



( エンジョイの効果は、  
こんな論拠で示されています。 )



しかし  
⇒

低たんぱく食を続けることはメニュー的にも、環境的にも難しい

エネルギー不足の場合、栄養障害が起こり、高カリウム血症が出たり、活動能力も低下する

- 社会復帰を前提とする患者さんにとって、活動の増加や外食機会の増加は必然です。今までどおり低たんぱく食を続けていくことに困難が出てくる場合も考えられます。

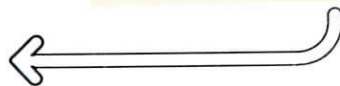



リンやカリウムを低く調整しながら、普通に近い食事のエネルギーが摂取できる食品があればいいのに



そこで

食事メニューの中のたんぱく質の一部を「エンジョイ」と置き換えるだけで、リンやカリウムを低く抑えることができ、かつ、良質なたんぱく質をとることができます。



上記低リン食品について資料をご希望の方は、官製はがきに  を切り取って貼り、〒、住所、氏名、電話番号、年齢、透析年数、透析病院名をご記入の上、左記へお送り下さい。



札幌市白石区流通センター1丁目11番17号  
森永乳業株式会社札幌支社  
低リン食品担当係  
TEL (011) 865-2821(直通)

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可 H・S・K通巻282号

発行所 北海道身体障害者団体定期刊行物協会

購読料は  
会費に含まれる